

ふ ろ が た に こ ふ ん し ゅ つ ど す え き  
風呂ヶ谷古墳出土の須恵器

●所在地／宮下 ●所有者／個人

風呂ヶ谷古墳から出土した装飾付き壺である。明治時代末に墳丘を削り平坦にして、水田化した際に、横穴式石室よこあなしきせきしつから、他の須恵器や金環きんかんなどと一緒に出土した。

広口壺ひろくちつぼの肩部に3体の騎馬像と、手綱をもった人物が装飾として付けられており、6世紀の葬送儀礼そうそうぎらいを表しているといわれている。騎馬像は、5 cm前後と小さいが、馬装や人物の服装が克明に表現されている。馬装や服装は騎馬民族と共通するものをもっており、朝鮮半島の影響が認められる。須恵器から見て古墳時代後期とみられる。

